

ニヌギ懸思フ事共書付テ同ジ枝ニ結置歳十七ト申ニ河ノミクツト成ニケリ法輪近キ所ニテ
入道此事ヲ聞河端ニ趣水練ヲ語テ淵ニ入女ノ死骸ヲ潛上火葬シテ骨ヲ拾ヒ頸ニ懸山々寺
寺修行シテ此彼ニゾ納ケル

〔風雅和歌集十六〕題玄らす

前大納言爲兼

大井川はるかにみゆる橋のうへに行人すこし雨の夕ぐれ

〔都紀行〕六日○文久四長閑の空にけふは嵐山の花を詠んと立出て○中渡月橋を渡りて右へ

河邊につき行○中樓門を過て智福山法輪寺に至るに山の半腹にして眞言宗本尊は虚空藏菩薩の座像なり○中山を下りまた渡月橋を戻るに柴舟に棹さして川水を登りて遊べる人を見て

大井川花の上なる虚空藏うなぎ登りに遊ぶ柴舟

〔山州名跡志十六〕相樂郡泉川橋 上古有橋

〔山州名跡志十六〕相樂郡木津川渡呼津加和上古ハ泉福寺ノ南一町ニ橋アリ

〔山城名勝志二十〕相樂郡泉河略○中橋今木津渡川上三町許

〔都名所圖會四〕木津川輪○呼津加和と訓す一名泉川あるひは

泉川橋上古橋あり

〔萬葉集十七〕讀三香原新都歌一首并短歌

山背乃久爾能美夜古波春佐禮播花咲乎乎理秋佐禮波黃葉爾保比於婆勢流泉河乃可美都瀬爾
宇知橋和多之余登瀬爾波宇枳橋和多之安里我欲比都可倍麻都良武萬代麻底爾略

右天平十三年二月右馬寮頭境部宿禰老麻呂也

〔行基大菩薩行狀記〕天平十三年辛巳木津川に大橋をわたし狛の里に伽藍を立僧院として泉橋

泉川橋